

鬼瓦 のルーツを尋ねて 韓国へ (30)

前橋市 富山 弘毅

ユグムワダン博物館の魅力

ソウルのユグムワダン博物館には、とても紹介しきれないほど豊かな古瓦の傑作が収集展示されていました。

その中には、日本で最も一般的なデザインである蓮華文の軒丸瓦とそっくりのものが、たくさんありました。中国、朝鮮の古瓦のデザインが今日の日本の屋根に直接つながっているのです。

でも、私の興味はやはり鬼面文の瓦。前回に続いて、展示されていた鬼面文軒丸瓦をもう少しご覧に入れましょう。



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当 南朝 AD420~588 江蘇省 南京



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当 北魏 AD386~534 河南省 洛



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当 高句麗 BC37~AD668 集安 山城子



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当 北朝 AD386~581 未詳



ユグムワダン博物館 展示 鬼面紋瓦当 北朝 AD386~581 未詳

チュンチョン

春川博物館で館長と懇談

韓国東部の江原道（ガンウォンド）での鬼探しの旅の2日目に、私は韓国国立春川（チュンチョン）博物館を訪問しました。

韓国の国立博物館は、民俗博物館（ソウル）を含めて12あり（日本は7館）、私が見学したのは中央（ソウル）、扶余、公州、慶州、光州に続いて春川が6つ目です。

2002年10月開館のこの博物館はモダンでシンプルな建物で、03年の「今年の建築賞」を受賞したそうです。小山に取り囲まれた庭園や散策路の周辺には、石造遺跡や発掘遺構が野外展示されており、江原道地域の文化遺産を保存修復するのが目的だといいます。入館料はここも無料で、国の文化重視の政策がわかります。



韓国国立春川博物館 正面玄関 全景

案内してくれた原州（ウォンジュ）市の武陵（ムルン）博物館館長・金在煥（キムチェハン）さんが連絡しておいてくれたおかげで、春川博物館長のキムチェホン氏と会うことができました。当日はお休みの日だったにもかかわらずわざわざ出勤し、迎えてくれたのでした。感謝です。

同氏は鉄器研究が専門で、千葉県佐倉市の国立歴史博物館に1年間、勤めたといい、日本語もかなり達者でした。ギッシリ詰まった書架に囲まれた館長室で、和やかな「鬼瓦論議」ができたのは、最高の幸せでした。

キムチェホン館長の鬼瓦についての見解は明快で、要約すると次の通りです。



キムチェホン・春川博物館館長（右）、金在煥・武陵博物館館長（中央）と語り合う筆者（春川博物館館長室で2012年6月19日）

- ① 日本の「鬼瓦」は日本がつくったもので韓国のものとはちがう。
- ② 韓国で古い「鬼瓦」を屋根に載せている寺院、宮殿などは、すでになくなった。
- ③ 韓国では「鬼瓦」の表記をすべて「龍頭瓦」に変えた。
- ④ そのルーツをたどると、百濟系の瓦は中国南朝から来ており、新羅系の瓦は高句麗、北魏から来ている。
- ⑤ 古い「鬼瓦」は各地の博物館にあるだけで、特にソウルのユグムワダン博物館に多数、保存されている。



①は、日本で一般化している立体的な鬼瓦など、日本独自の発展を遂げてきた鬼瓦とそっくりのものは韓国にはないということで、同感です。私自身も7回の訪韓で確かめました。「鬼面」に見えるものは凹凸が浅くて平面的であり、立体的なものは「龍頭瓦」です。

②は、現在の韓国の寺院、宮殿などの屋根には、古い「鬼瓦」は韓国流のものも残っていないということです。

拙稿で、くりかえし述べてきたように、豊臣秀吉軍の侵略、世宗による仏教弾圧、日韓併合に伴う神道（神社）押し付け、朝鮮戦争などによって、朝鮮半島の寺院、宮殿は破壊されました。特に、秀吉軍に抵抗した民衆が拠点にした寺院は徹底的に攻撃され、破壊しつくされましたから、今ある寺院は、古いように見えてもほとんどすべて、そのあとで再建された「新しい」建

物なのです。朝鮮戦争後に再建された建物は、もちろんです。

③は、拙稿でレポートした中央博物館、慶州博物館だけでなく全韓国で、これまで日本流だった「鬼面瓦」の表記を「龍面瓦」に書き換えることが共通認識になったことを証言してくれたのだと思います。

2011年11月に慶州博物館でお会いした研究員は、私の質問に対し、「鬼面」から「龍面」への表記変更は慶州だけのことで他の博物館などと共同していっせいに変更しようとするものではないといっていました。それから半年余りの間に、学界の共通認識または意思統一が進んだのかもしれませんが。

ただ、春川博物館の展示品に「鬼瓦」が2つありましたが、説明札は「鬼面瓦」のままでした（写真下、右）。近いうちに書き換えるのでしょうか。



春川博物館展示 鬼面瓦 統一新羅時代

このほか、「獅子文」の軒丸瓦が2点ありました。日本の博物館なら軽視してしまうかもしれないな、と思いながら、歴史文化を大事にしようとする韓国の人びとに頭の下がる思いでした。



도깨비기와 鬼面瓦

통일신라시대 統一新羅時代
양양 선림원지 襄陽 禪林院址

Roof tile with monster eye design
Unified Silla
Seollimwon Temple Site, Yangyang

春川博物館展示 鬼面瓦 統一新羅
襄陽 禪林院址出土

★まだ、ハングル文字で「トッケビ・キワ鬼面瓦」と表現している。



国立春川博物館展示
獅子紋円瓦当 統一新羅



国立春川博物館展示
統一新羅 太白 本寂寺址
獅子紋円瓦当

④、⑤も、今度の旅でしっかり勉強させていただきました。

私は日本の鬼瓦のルーツを探って韓国の各地方をかなり広範囲に歩きましたが、さらにその先のルーツは中国に遡られるということは間違いなさそうです。あとでやや詳しく検討したいと思います。

興味深い展示物も

春川博物館には、ほかにとても興味深い展示物がありました。

多分、訪問を予告した私たちのためにわざわざ出勤してくれたように思われる日本語のできる女性ボランティア解説員が、親切に案内してくれました。

一つはトンバンサが載っている霊柩車で、葬儀のとき棺を運ぶ大八車のようなものです。上部飾りの先頭が龍で、その後人飾りが載せてあり、これが「昔の中国で三千甲子生きたといわれるトンバンサという人がヘッテに乗っている像です」。

十干と十二支の組み合わせの1番目は甲子(きのえ・ね)で、1甲子は60年、三千甲子は18万年。長生きの象徴です。



国立春川博物館展示 霊柩車の上部装飾
ヘッテに乗るトンバンサ

もう一つは、人のへその緒を大事に保存する石の壺です。「1486年、春川の皇女・福蘭の胎室」と表記されていました。この壺はほかに3個展示されていました。



国立春川博物館展示 へその緒を入れる石壺

梵鐘の吊り手の龍頭は、実にリアルな造形で、韓国での龍の歴史的なイメージをよく伝える逸品でした。(写真下)



館内のミュージアムショップで、鬼瓦のミニチュア3つを杉の板に貼り付けた壁掛けを発見しました。4種類ありましたが似たものでしたので、2個だけ求めました。1個25,000ウォンでした。(つづく)



鬼瓦ミニチュアの壁掛け 春川博物館売店